海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/06　～2019/09/05　)

１．勉学の状況

8 月 15 日、16 日に the Faculty of Arts and Science と the Faculty of Educational Science オリエンテーションがありました。二学部合同のオリエンテーションでは、スウェーデンの歴史・文化、大学や図書館やアカデミックサポートの使用方法などの説明に加え、グループに分かれ学内を探検しながらミッションをこなすアクティビティも組み込まれており、千葉大学の 3、４倍は平気でありそうな広すぎるキャンパスを知るにはとても適しているなと感じました。

授業については、19 日から最初の授業が始まりました。ただし、開始期間については学部やとる授業によって２週間ほどばらつきがあるようです。ここからは授業ごとに書いていこうと思います。

- History of Education

特にスウェーデンに注目しながらも、ヨーロッパ全体の教育史について学ぶ授業です。1 ヶ月足らずで完結する授業ということもあり、詳細に歴史を見ていくと言うよりはざっくり俯瞰するようなイメージが近いと思います。授業形式としては、先生が講義をしてくれる回(lecture)と、教科書の指定箇所を読み込み集まって自分たちで学びを深める回(group work)の 2 パターンから成り立っています。英文を読むのが遅い私は、この Group work のための準備がなかなか大

変で苦労しています。

- International Course in Drama Communication

コミュニケーションや演劇の理論を学びながら、実践的に応用していく授業です。先生主導の体を使ったアクティビティ行いその効果や意味を学ぶ回と、文献を読み込み生徒だけでディスカッションを行う回に分かれています。授業で取り扱われるアクティビティは主にノンバーバルコミュニケーションを育むものなので、将来教員になったときにも応用できそうだなと感じています。また、アクティビティを通して他の留学生と仲良くなれるだけではなく、その意図や目的をアクティビティごとに話し合う時間が設けられているため、とても学びの多い授業です。

- Nordic Culture -Area of emphasis: Educational Sciences

授業名の通り、北欧の文化について学ぶ授業です。講義はもちろん、宿泊を伴うセミナーや料理を作る回、音楽を聴きにいく回などさまざまな方法で学ぶようです。まだオリエンテーションに参加しただけですが、楽しそうでわくわくしています。

今期はこの他に、スウェーデン語の授業もとる予定です。街中や大学で触れるスウェーデン語がとても好きなので、授業が始まるのを待ち遠しく思っています。

２．生活の状況

留学開始前に、昨年度リンショーピン大学に留学していた友達がいろんな情報をシェアしてくたり、こっちにいる日本人留学生とつなげてくれたおかげで、到着後スムーズに入寮することが

できました。本当に感謝しています。

私は、コリドーと呼ばれるタイプの寮に住んでいます。コリドーでは、個々人がバスルームつきの部屋をもっていて、ダイニングとキッチンを 8 人ほどで共用しています。キッチンで同じタイミングで料理をしていたりすると話しかけてくれたり、「何かわからないことあったらいつでも聞いてね。」と声をかけてくれたり、プライベートな時間は守られつつも、一人ぼっちに感じることが少ないコリドーの形態はとても素敵だなと思います。

リンショーピン大学は留学生が多いこともあり、留学生同士の交流を目的としたイベントがたくさん開催されています。主に ISA と ESA という団体があり、ほぼ毎日のようにバーベキューや街探検のツアー、スポーツ大会など何かしらのイベントが予定されています。オリエンテーションが始まるまで、1 週間余裕があったので、友だちをつくるためにイベントに参加していました。しかし、自分の英語力不足や話しかける勇気のなさから、思うようにコミュニケーションがとれずとても落ち込むこともありました。実は今でも、自分の気持ちをうまく表現できず伝えられず悔しい思いをすることが毎日のようにあります。でも、そんな葛藤をしながらも気づいたら、ご飯に誘ってくれたり、旅行に誘ってくれたり、少し会ってなかっただけで会いたかったよと言ってくれたりする友達ができていました。今は、「友達たちともっと話したい。」という気持ちが英語学習のモチベーションになっています。

授業が始まってからは、日中は図書館にこもり授業の準備や課題をこなし、夜は友達とご飯を作って食べて話してリフレッシュするというような生活が続いています。正直、大変だなと感じ

る瞬間も多いです。しかし、学ぶことがたくさんありながらも、友だちとの交流も楽しめている

今の生活はとても充実しているなと感じています。

↑いつもお世話になっている図書館。なんとこの８月からオープンした新築です！

↑友達と湖でピクニックをしました。各自でごはんを持ち寄って食べました。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/06　～2020/01/06　)

1.　勉学の状況

秋セメスターにとっていた授業全てが 12 月中旬に終了したあともしばらくは課題に追われる日々が続いていました。しかし、ようやくそれらもひと段落つき、8 日から始まるスウェーデン語の集中講座まで少し余裕を持って日々を過ごしています。ここからは、各授業について簡単に振り返りたいと思います。

- History of Education（0819～0913）

前回の報告書でも少し触れたように、スウェーデンに注目しながらもヨーロッパ全体の教育史をざっくりと学ぶ授業です。週に 1、2 回ほどある 2 時間ほどの先生による講義形式の授業と、週に 1 回のグループワークが一ヶ月ほど続きました。グループワークは、各回までに各々が文献を読み込みそれについてのディスカッションをするという内容でした。毎週、グループワークに参加する人数が減っていき、最後は日本人とシンガポール人数名という状況でした。ざっくりとヨーロッパの教育について知るには適している授業だと思いましたが、正直、私は少し物足りなく感じました。

- International Course in Drama Communication（0819～1216）

演劇の理論を学びながら、ノンバーバル、バーバルのコミュニケーションを通した対人関係の育み方、文化の違い、劇を用いた教育、についての考えを深めることができる授業です。12 月前半までは週に一回 4 時間の中で、エクササイズを通して理論を体感的に学んだり、読み込んだ文献について先生も交えて議論をしたり、文化の違いについて意見をかわしながら授業が行われ、12 月前半からは、最終課題である 20 分の演劇の上演に向けて、毎日のようにグループで集まって舞台を作りました。自分の考えや自国のことについて尋ねられる機会がとても多く、最初は少し戸惑い、自分から発言することに躊躇することも多々ありました。しかし、先生が私たち生徒をディスカッションに巻き込むことが非常にうまく、クラスのメンバーの雰囲気がとてもよく、話す途中で詰まることや間違えることを恐れるよりも、伝えたいという気持ちのほうが強くなり、中盤からは積極的に意見を言えるようになりました。そうしたことで、英語で表現できるかの自信がなくても口に出してみると、案外伝わるし、恐れるよりもまずは行動に写すことが大切であると学びました。もちろん文化の違いを目の当たりにし苦しかった瞬間もも自分の英語力にがっかりする瞬間もありました。しかし、授業内容以外にも非常に多くのことを学ぶことができるのに加え、かけがえのない仲間も得ることができたこのコースは、今期とった授業の中で間違いなく一番とってよかったと思えるコースです。

- Nordic Culture -Area of emphasis: Educational Sciences（0828～1205）

北欧（スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、アイスランド）の様々な文化について学ぶ授業です。週に一回ある講義に加え、秋セメスターでは、リンショーピンの田舎に行きスウェーデンの自然に触れる宿泊授業と、ストックホルムに滞在し街の歴史や成り立ちを学ぶ宿泊授業も開講されます。カントリーサイドトリップの中で、サウナに入り満点の星空の下湖に飛び込んだのがとてもいい思い出です。

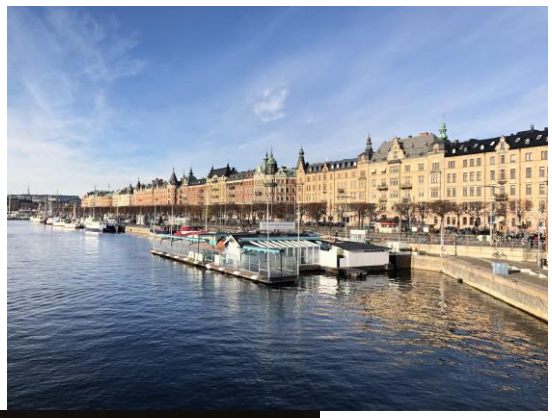
- Beginner's Course in Swedish for Exchange Students, level A1（0917～1210）

スウェーデン語の一番初心者用のコースです。週に一回 3 時間の授業があります。今まで受けてきた文法をとても丁寧に教えてくれるような語学の教授法ではなく、つまづきそうな部分にフォーカスして教え、実践（宿題として課される問題集）ののちに質問を受け付け答えるというような流れで授業が展開していきました。個人的にスウェーデン語を学ぶことは楽しかったし、文法や単語も少し英語に似ていると感じました。しかし、授業だけでは理解できない部分や、特に発音の面でスウェーデン人の友達にたくさん助けてもらいました。

春セメスターでは、Beginner's Course in Swedish for Exchange Students, level A2,B1、The Swedish Model, Introduction to Special Education in a Swedish Context、Teaching Practice の合計 5 つの授業をとる予定です。

２．生活の状況

もうすでに日本に帰るのが億劫なほど、リンショーピンでの生活はとても心地がいいです。多くの人から聞いていたスウェーデンの陰鬱な冬を経験していますが、それほど生活に支障をきたしているとは感じません。ただ、午前 10 時にようやく明るくなったと思いきや、午後 3 時半には暗くなると、太陽がとても恋しく感じます。天気よりも最近は友達との別れを経験し、寂しい気持ちになることが多かったです。リンショーピン大学に交換留学生としてくる生徒の大半は、1 セメスターで帰ってしまうため、ようやくできた完全に心を開いた友達ともしばらく会えなくなってしまいます。寂しいと思うのと同時に、たった半年にも満たない中でかけがえのない友達ができたことにとても感謝しています。異なる文化や考え方をもった人々と友達になって一緒に時間を過ごしている中で、今まで自分がどれほど狭い視野で物事を見てきたかということや、意識せずにもっていた偏見に気づくことができました。また、最近になってようやく、何も考えずに英語を話したり聞いたりすることができるようになってきました。ただ、語彙力や表現の幅がないことで、日本語だったら伝えられるのに、と歯がゆい気持ちになることはまだまだあります。街で見かけるスウェーデン語の意味はなんとなくとれるようになってきましたが、やはり会話になるとまだまだ難しいです。勉強や予定に追われていた前セメスターの二の舞にならないよう、余裕をもって悔いのないように残り半年を過ごしたいと思います。



※写真について

・左上；この日は、ファーストアドベント（12 月の最初の日曜日）だったので、スウェーデン人の友達のお家でジンジャーブレットとサフランパン作りをしました。これらはスウェーデンのルチア祭やクリスマスに欠かせない食べ物です。なんと 5 時間近くかかりました！！

・右上；天気がいい日のストックホルムの景色です。行けば行くほど好きになる、不思議な街です。

・左下；クリスマスはスウェーデン人の友だちの実家にお邪魔させてもらい、とてもとても素

敵な時間を過ごしました。実はこのクリスマスツリーは 23 日の朝に友だちのお父さんに連れられ、モータバイクで森に行き切ってきたモミの木です。他にもケーキを焼いたり、ユールボートというスウェーデンのクリスマスのビュッフェを親戚の皆さんと楽しんだり、恒例のビンゴに勤しんだり、始めて本物のクリスマスを経験したような気持ちになりました。
・右下；ウィーンのクリスマスマーケットです。ホットワインが美味しかったです！

海外派遣留学プログラム報告書

（報告期間：2020/01/07　～2020/05　）

感染症の影響で、留学を３月末に中断し帰国しました。慌ただしく、正直ほんの少ししか過ごすことのできなかった春セメスターでしたが、時系列順に書いていこうと思います。

１．勉学の状況

春セメスターで履修した授業は以下の通りです。

・Beginner‘s Course in Swedish for Exchange Students, level A2
・Beginner‘s Course in Swedish for Exchange Students, level B1
・The Swedish Model
・Introduction to Special Education in a Swedish Context
・Teaching Practice

ただし、３月中旬から大学で開講されるすべての授業がオンラインに移行したこともあり、私は単位互換の必要がないため途中で履修を終えた授業もいくつかあります。以下、授業ごとに少し振り返ってみようと思います。

- Beginner‘s Course in Swedish for Exchange Students, level A2
- Beginner‘s Course in Swedish for Exchange Students, level B1

A2 については、集中講義の形式で履修しました。集中講義はたいてい休暇の季節に開講され、9 時から 15 時までの授業が約 2 週間強ほぼ毎日続きます。2020 年は、1 月 16 日あたりから大学の春セメスターが始まりましたが、このスウェーデン語のコースは１月８日から始まりました。

レベルが上がったということもあり、授業は基本的にすべてスウェーデン語で行われます。また、インプットよりもアウトプットが重視され、スピーキングの活動にかなりのウエイトが置かれていました。普段、英語が多い環境に身を置いていた私にとってはとてもよい機会でした。

ただし、人数が 10 人以下ととても少ない中、そのほとんどはドイツ語話者であったことから、言語習得のスピードにかなりの差がありました。（ドイツ語とスウェーデン語はかなり似ているといわれており、実際友人に聞いたところ言語を習っていてもなんとなくお互いの単語の意味を想像してあてることのできるレベルといっていました。）そのことから、自分のスウェーデン語の拙さに悔しくなり焦る日々が続きました。また、ほぼ毎日５時間以上スウェーデン語に集中しなくてはいけない生活は少しハードにも感じました。

A2 の口述試験、筆記試験を無事２月上旬に突破した後、２月中旬から B1 のコ

ースが始まりました。本来であれば5月の中頃までを予定していましたが、1か月も満たないうちにオンラインのコースへと移行してしまいました。

- The Swedish Model

　主に社会福祉や社会学について、スウェーデンのことを中心にヨーロッパのことまで広く学ぶ授業です。週に1回程度の授業が1月末から5月中旬まで続きます。2回レクチャー式の講義を受けたのち、4、5人のグループでテーマに沿った資料を作り発表、軽くディスカッションを行うという形式でした。

　この授業に臨むことは、非常に大変でした。特に、社会学について学習したことがなかった私は背景知識もなく、さらに、少人数グループに積極的に参加しようとしても英語力の拙さに悩み予習や復習、課題に時間を費やす日々を過ごしました。

- Introduction to Special Education in a Swedish Context

　スウェーデンの、特別なニーズを要する子どもたちに対する教育について学ぶ授業です。週に2回程度の授業が1月末から3月末まで続きます。授業は継続して1つのテーマを扱うというよりは、オムニバス形式で毎回テーマごとに先生が変わるというような形式をとっていました。毎回授業で、ディスカッションや意見交換、出身の国についてシェアするような時間が多く設けられるため、参加しながら授業が進んでいくような印象を受けました。

　この授業で取り扱う特別支援教育について知識が乏しくても、どういった特徴があるのかということや診断基準など基本的なことから講義を受けることができます。また、3回ほど実際に現地の学校に見学に行ったり、特別支援教育をサポートする地方自治体の機関にお話を伺いにいったりする機会も設けられています。実際に子どもたちがいる中で施設を見学し、特別支援にかかわる先生のお話を聞くことができました。特別支援教育や教育について興味がある方にとてもおすすめです。

- Teaching Practice

　自分が希望する学校にセメスターを通して 30 日間ほど行きながら教育実習を行う授業です。1月上旬に、希望していた配属先についての情報が大学から送られてくるので、自分で担当教員とやり取りをして日程などを決めます。私は、1月はスウェーデン語の集中講義で忙しかったため、2月上旬から1週間に2日間ほど基礎学校（スウェーデンの義務教育段階にあたる学校。第1〜9学年までが在籍している。）に通っていました。この学校は、学年段階によって校舎が異なる学校で、私は第4学年から第6学年までを指す mellanstadiet と呼ばれる段階が在籍する校舎で教育実習を行いました。担当教員は、テキスタイルスロイド科という教科を専門とする先生で、主に美術科とテキスタイルスロイド科の授業を受け持っていたため、私も基本的にそれらのクラスに入りました。スロイド科とは、北欧に

おける手工教育を指します。テキスタイルスロイド科において児童は、布や生地を使って自分の好きなものを手縫いまたはミシン縫いで作る活動を主に行っていました。

担当教員と一日中行動を共にするため、いろいろな話をすることができました。スウェーデンと日本の教育方針、重点の置き方、教員の働き方など、お互いに大きな発見があり担当教員と話す時間は非常に楽しく有意義に感じました。子どもたちの中には、驚くほど英語を話すことのできる子どももいますが、ほとんどの子どもは英語を話すことに躊躇するため、なかなかコミュニケーションを図ることに最初苦戦しました。しかし、だんだん大学で習っているスウェーデン語を使ったり、子どもたちにスウェーデン語の言い方を習ったりするようになってから、距離が一気に縮み彼らも英語を頑張って話そうとする姿勢を見せてくれるようになりました。

担当教員と実習で行う授業プランを練り上げながら、子どもたちとの距離を徐々に縮めていた矢先に帰国が決まり、教育実習は中断となりました。しかし、さまざまな知識や考え、経験を得ることができました。

2．生活の状況

1 月上旬に秋セメスターをともに過ごしていた仲間が去り（留学生のうち 8 割ほどは 1 タームのみで帰ってしまいます。）、名残惜しみながらスウェーデン語の集中講義に取り組むうちにあっという間に 1 月は去っていきました。秋セメスターでの悔いをバネに、春セメスターからやってきた留学生に積極的にかかわったため 2 月初めには友達にも多く恵まれました。また、留学当初から仲良くしてくれているスウェーデン人の仲間たちともさらに仲を深めていました。

COVID-19 について。1 月はまだ「中国のほうで大変なことが起きているな」という認識でした。2 月になりイタリアでの感染が拡大したことで、ちらほらと大変だねというような話が出ていましたが、だれも（私自身含め）自分事としては捉えてはいない雰囲気が、3 月上旬から変わり始めました。まず、スーパーでトイレットペーパーが面白いほどきれいになくなりはじめ、アジア人に対する差別（実際に私の日本人の友達も、街の中でマスクをして歩いていたところ COVID-19 についてきつい言葉をかけられていました）も少し見られるようになりました。そして、アイルランド、香港、韓国、ベルギー、アメリカなど様々な国の留学生が続々と帰国を決め始めました。3 月中旬（2 週目末だったと記憶しています）には、大学も全授業をオンラインに移行することを発表し対面の授業は全く行われなくなりました。

できる限り長くいたいと願っていましたが、日本でもスウェーデンでも刻一刻と（文字通り毎日何か変化が起きました）変わる状況や感染状況に頭を悩ませられ、正直追い詰められていました。さらに、オンライン授業への移行が決定したため今後の留学をどうするかとい

うことに真剣に悩みました。結局、飛行機の便が続々とキャンセルになっていること、国境封鎖が相次いで行われていることから、帰国できなくなる可能性があるのではないかと危惧し帰国を決断しました。本当は、留学でやり遂げたかったことを完全には終えることができなかったため、とても、とても苦しい決断でした。もし、スウェーデン人の友達たちが毎日温かく優しく寄り添ってくれていなければ、気持ちがダメになってしまっていたのではないかと思うくらい心をすり減らすことになる期間でした。

終わりこそバタバタしてしまいましたが、トータルで見ると非常に有意義でかけがえのない経験を、派遣留学を通して得ることができました。これもひとえに、このようなチャンスを与えてくれた千葉大学と、留学生活をずっとサポートしてくださった留学生課の皆様のおかげです。本当に、ありがとうございました。